

血管診療技師認定試験

症例リストおよび
レポート作成にあたっての
注意点

症例リスト作成 にあたっての注意点

2024年度 第18回血管診療技師認定試験

24-

検査実施、検査介助、治療実施、治療介助の症例リスト

1枚目/5枚

※CVT認定機構WEBサイトに掲載されている「症例リスト作成の手引き」「症例リストおよびレポート作成にあたっての注意点」(PDF)をよくお読みの上、ご記載下さい。

受験者氏名： _____

職種： _____

上記のものが以下を行ったことを証明いたします。

指導医所属施設、所属部署、役職： _____

指導医氏名： _____ 印

指導医所属学会（会員番号）

日本血管外科学会（ _____ ） 日本脈管学会（ _____ ）

日本静脈学会（ _____ ） 日本動脈硬化学会（ _____ ）

通し 番号	実施年月日	実 施 コード※	検査、治療 または介助内容	(検査を行う契機となった) 原疾患診断名 ※疑いでも可	検査による診断名、所見 ※疑い、正常でも可 ※治療・治療介助の場合は 原疾患診断名と同じでも可
1					
2	経験症例は複数疾患，複数病態，複数実施コードを含むことが望ましい。				
3					
4					
5					

通し 番号	実施年月日	実 施 コード※	検査、治療または介助内容
1			
2			



検査・治療の
実施年月日を記入してください。
理学療法士の場合は複数回の治療を行った
年月日を1回ずつ記載してください。

実施コード※	検査、治療または介助内容	(検査を行う契機となった) 原因 ※疑いでも可	実施コード 1. 検査 2. 検査介助 3. 治療 4. 治療介助 5. 見学 6. 実践教室

右の実施コードを記載する

☆特に間違っていて提出されている項目

- ・各職種によって必要コード数が違うので、必ず事前確認を
- ・1.検査は、「単独で行っている」検査を指します。
- ・放射線技師の場合、検査と検査介助が混乱しないように。

実施 コード※	検査、治療または介助内容	(検査を行う契機となった) 原疾患診断名 ※疑いでも可



具体的な内容を記載する

☆特に間違って提出されている項目

- ・エコーだけだと内容が不明なので、下肢動脈エコーや大動脈エコーなど、部位を記載してください。
- ・CT, MRIについても下肢CTや腹部MRIなど記載します。
- ・心臓カテーテル検査は対象になりません。「大動脈造影」など血管領域の検査として記載してください。

検査、治療または介助内容	(検査を行う契機となった) 原疾患診断名 ※疑いでも可	検査による診断名、所見 ※疑い、正常でも可 ※治療・治療介助の場合は原疾患診断名と同じでも可



「(検査を行う契機となった) 原疾患診断名」を記載する

「糖尿病」や「閉塞性動脈硬化症疑い」など、検査を行う根拠となった臨床病名を入れてください。「〇〇術後」のみでは不十分です。必ず原疾患名を入れること。

必ず検査後に得た「血管疾患としての検査診断名」を

検査、治療または介助内容	(検査を行う契機となった) 原疾患診断名 ※疑いでも可	検査による診断名、所見 ※疑い、正常でも可 ※治療・治療介助の場合は原疾患診断名と同じでも可



「検査による診断名、所見」を記載する

☆特に間違っていて提出されている項目

- ・ 検査の場合，検査依頼時の診断名ではなく，検査後の診断名を記載します。
- ・ 例えば頸動脈エコー検査時の確定診断名に，糖尿病や脳梗塞などは検査後の診断名として不適切です。
あくまで血管疾患としての記載になりますので，頸動脈エコーに異常がなければ「正常」という記載になります。
- ・ 必ず異常例を含めてください。
- ・ 治療の場合は「原疾患診断名」と同じになります。

必ず検査後に得た「血管疾患としての検査診断名」を

検査、治療または介助内容	(検査を行う契機となった) 原疾患診断名 ※疑いでも可	検査による診断名、所見 ※疑い、正常でも可 ※治療・治療介助の場合は原疾患診断名と同じでも可



「検査による診断名、所見」を記載する

☆特に間違っていて提出されている項目

- ・ **ABIやSPP**などで，数値上正常でも「閉塞性動脈硬化症疑い」といった記載が見られます。数値が正常であっても波形から動脈硬化症を疑った場合はよいですが，**波形，数値とも正常にもかかわらず「疑い」がつくことはありません。**数値と波形を総合的に判断して診断名を記載してください。
- ・ 心臓カテーテル検査では，大動脈造影がなければ不可，造影していて異常がなければ「正常」になります。
- ・ **頭蓋内動脈，冠動脈，門脈など臓器内血管は対象外**です。

その他，提出時に確認しておいて欲しい項目

☆症例証明のコピー

自身が関わったことを証明する必要があります。
検査の場合は，**自身の名前**を記入しておいてください。
CTなどの検査依頼書を提出している場合は，**自身の名前と指導医のサイン**を記入してください。
カルテ内容を提出している場合は**自身の名前と指導医のサイン**を記入してください。

空白部分にサインを記載

身長: 154.0 cm 体重: 46.4 kg BMI: 19.6 kg/m ² HR: 62 [拍/分]				AF: 460 mm
動脈の硬さ CAVI	右	7.9	~8.9	血管の硬さは60代前半に相当します。
	左	7.9	(8.7 ± 0.8)	血管の硬さは60代前半に相当します。
動脈の詰り ABI	右	1.05		正常範囲です。
	左	1.04		正常範囲です。
血圧[mmHg]	右上腕	105 / 67	(80)	正常範囲です。
血圧 [mmHg]				ECG x2 
右上腕	左上腕	右足首	左足首	
105 / 67	98 / 68	110 / 62	109 / 60	
(80)	(77)	(81)	(74)	

レポート作成 にあたっての注意点

2024年度 第18回血管診療技師認定試験 レポート

24-

1枚目/5枚

※CVT認定機構WEBサイトに掲載されている「症例リスト作成の手引き」「症例リストおよびレポート作成にあたっての注意点」(PDF)をよくお読みの上、ご記載下さい。

※正常例は除く。同一疾患は2例まで可としますが、別内容にして下さい。

※理学療法士の場合は3例以上同一疾患でも可。1患者に対して複数回の治療経験がある場合は、1患者につき1枚のレポートにまとめる(10回の治療までまとめて記載可)。6枚以上になる場合はコピーして記載すること。

受験者氏名： _____

職種： _____

指導医サイン： _____ 印

	症例リストNo.	
①	年齢	
②	性別	
③	検査による診断名、所見(疑いでも可) ※治療・治療介助の場合は原疾患診断名と同じでも可	
④	行った検査や治療、介助の内容 ※理学療法士は治療年月日とその内容を各回ごとに記してください(特に複数回治療経験のまとめの場合)	
⑤	あなたが患者にどう関わったか あるいは患者に関わったことにより印象に残ったこと、治療の考察を記してください ※理学療法士の複数回治療経験のまとめでは、治療前後の変化に関する記載を含める	
⑥	その他 記載しておきたいアピールポイント(必須ではない)	

〈レポート〉

	症例リストNo.	100例の症例リストに対応した番号を記載
①	年齢	患者の年齢を記載
②	性別	患者の性別を記載
③	検査による診断名、所見（疑いでも可） ※治療・治療介助の場合は原疾患診断名と同じでも可	症例リストに記載した診断名を記載
④	行った検査や治療、介助の内容 ※理学療法士は治療年月日とその内容を各回ごとに記してください（特に複数回治療経験のまとめの場合）	

詳細な記載は不要です。どのようなことを行ったかを簡潔に記載してください。
ただし理学療法士の複数回治療の場合は年月日を記載し、それぞれの治療の内容を記してください。
血管疾患でない症例は選択しないように。
（ベーカー嚢胞や門脈圧亢進症などは対象外です）

⑤	<p>あなたが患者にどう関わったか あるいは患者に関わったことにより 印象に残ったこと、治療の考察を記して ください</p> <p>※理学療法士の複数回治療経験のまとめ では、治療前後の変化に関する記載を含 める</p>	
---	--	--



患者に関わった内容，患者に関わったことにより印象に残ったこと，5例のレポートに選んだ理由について詳細に記載してください。

深部静脈血栓症を想定

<p>⑤ あなたが患者にどう関わったか あるいは患者に関わったことにより 印象に残ったこと、治療の考察を記してください</p> <p>※理学療法士の複数回治療経験のまとめ では、治療前後の変化に関する記載を含める</p>	<p>例：右下肢の腫脹でエコー検査依頼あり、大腿部以遠の発赤腫脹あり、右下腿 Homans 徴候(+). Dダイマー$2.5\mu\text{g/dl}$と高値. 下肢静脈エコーにて右大腿静脈からひらめ静脈にかけて血栓を認めた. また、右大腿静脈中枢部には浮遊性血栓を認め、肺血栓塞栓症のリスクが高いと判断した. 主治医に直接連絡したところ、同日 IVC フィルター留置の方針となった. エコー検査が早急な治療方針決定に役立った症例だった.</p>
--	---

ダメな例：

- ・ 静脈エコーを行った.
- ・ 静脈エコーで浮遊性血栓を認めた.
- ・ 興味深い症例だった.

など

⑥

その他
記載しておきたいアピールポイント
(必須ではない)



検査時の工夫点や多職種連携など、アピールするポイントがあれば記載してください。

例：今回、多職種連携がうまくいきました。
今後CVTを取得することに自信がつけました。

- 現在，約 4 割の方に何らかの不備があります。
特に多いのは症例リストの実施コードと
診断名です。
- **HP**にある症例リスト作成の際の注意事項を
よく読んで提出してください。